

栃尾地域における繊維産業の現状と課題

(栃尾織物工業協同組合加盟各社からのヒアリング結果より)

△：弱み ○：強み □：中間

△人材の不足

- ・熟練技術者の高齢化が進んでおり、技術の継承が必要。
- ・技術の継承には年数がかかるが、低賃金や先行きの不安などから若い人が就職しない。

△外注先の減少

- ・織物の製造工程の一部を担う外注先（個人事業主）が高齢化等により次々に廃業している。
- ・外注していた作業工程を自社工場内に組み入れるとしても、人手や設備の面で課題がある。

△古い機械の維持

- ・機械メーカーが作る新しい機械は大量生産向けのもので、古い機械は製造中止となっているものが多く、修理が必要となっても部品が手に入りにくい。
- ・古い機械でしか出せない風合いがあり、差別化のためにも古い機械の維持は重要。

○産地内で何でも織れる（編める）

- ・各社が何かしら得意なものを持っており、天然繊維から化合織まですべての素材を織ることができる。
- ・逆に、「栃尾産地ならこれ」といったものがなく、PRが難しい。
産地の例：尾州（愛知県）＝毛織物、西脇（兵庫県）＝綿織物、丹後（京都）＝絹織物 等
- ・幅広く機械を持っている（ニット）

○小ロット多品種に対応できる

- ・製造単位の小さな注文にも対応できる。

□SDGs の流れ

- ・大量生産・大量廃棄への批判・反省から、ウイルス禍の外出機会減少によって落ち込んだ衣料品の需要が、以前のように回復する見込みは薄い。#
- ・製造過程で必ず廃棄物が発生する。#